令和7年度 第1回豊能町教育委員会会議（4月定例会）会議録

日 時： 令和7年4月17日（木） 午後2時00分開会

場 所： 豊能町役場 2階 大会議室

出席者：	教育長	板倉 忠
	教育委員	坂口 敏子
	教育委員	馬渡 秀徳
	教育委員	小松 郁夫
	教育委員	増田 ゆか
事務局：	こども未来部長	仙波 英太郎
	教育総務課長	池田 拓也
	義務教育課長	峯 亜希子
	こども育成課長	高田 浩史
	生涯学習課長	中谷 匠
	教育総務課主任	横山 悟士

傍聴者： 3名

会議次第

○審議事項

第1号議案 豊能町立小・中学校通学区域審議会規則の一部改正の件

第2号議案 豊能町立小・中学校通学区域審議会への諮問の件

第3号議案 豊能町西地区における公私連携幼保連携型認定こども園設置に関する
基本方針制定の件

第4号議案 豊能町立図書館協議会委員の任命について

○承認事項

第1号承認 豊能町教育委員会と桃山学院大学との連携協力に関する協定について

第2号承認 専決処分の報告の件

第3号承認 専決処分の報告の件

○各課・室からの報告

【教育長】

それでは定刻になりましたので、第1回豊能町教育委員会会議を始めさせていただきます。馬渡委員が業務の都合で15分ほど遅れるとの連絡がございましたので、報告事項からさせていただきますと思います。宮崎委員は本日所用により欠席のご連絡をいただいております。よろしくお願いいたします。

【こども未来部長】

- ・教育委員会事務局管理職の人事異動について

【こども育成課長】

- ・「第3期豊能町子ども・子育て支援事業計画」の冊子の配布について
- ・ふたば園児の通園バス運行開始について

【生涯学習課長】

- ・イベント関係について

【教育長】

- ・関西万博テストランについて
- ・入学式について

【教育長】

では本日出席予定の方が揃いましたので会議を始めます。ただいまの出席委員は4名でございます。過半数に達していますので、令和7年度第1回豊能町教育委員会会議4月定例会を開会いたします。宮崎職務代理におかれましてはご欠席との連絡をいただいております。従いまして、会議録署名人を坂口委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、議題に入ります。本日は審議事項が4件、承認事項が3件ございます。初めに第1号議案「豊能町立小・中学校通学区域審議会規則の一部改正の件」でございます。事務局よりご説明お願いいたします。

【教育総務課長】

今年度もよろしくお願いいたします。第1号議案「豊能町立小・中学校通学区域審議会規則の一部改正の件」についてご説明させていただきます。

お手元に配布しております議案書、概要資料及び新旧対照表を併せてご覧ください。改正理由でございますが、豊能町情報公開条例に規定しております会議の公開の原則に基づき、豊能町立小・中学校通学区域審議会の会議を公開できるよう、所要の改正を行うと同時に、審議会の構成を具体的に規定するものでございます。

改正規則の概要でございますが、第4条中、審議会の委員の規定でございますが、改正前は学識経験者と町職員と規定しておりましたが、広く多くの意見を聴取するため、委員の構成に町の住民及び小・中学校の校長を追加するものでございます。

また、改正前の「豊能町立小・中学校通学区域審議会規則」第10条において、審議会の会議は公開しないと規定されていましたが、豊能町情報公開条例に規定する会議の公開の原則に基づき公開とすることから、非公開としておりました条を削除するものでございます。

附則の第1項といたしまして、この附則は公布の日から施行するものとします。附則の第2項におきまして、規則の施行後、最初に召集される審議会の招集及び会長が決定されるまでの審議会の会長の職務は教育長が行うことと規定しております。説明は以上でございます。ご審査いただきご決定いただきますようよろしくお願いいたします。

【教育長】

説明ありがとうございます。ただいまの説明に対する質疑を求めます。新旧対照表を見ていただくと一番わかりやすいかと思っております。いかがでしょうか。

第4条のところで、町の職員と学識経験者で構成するとなっていました。住民の方や学校現

場が分かっている人等、もう少し広く意見を聞けるようにするための改正となります。

もう一つの第 10 条について、今まで公開ではなかったのですが、やはり公開した中で議論していただく方が良いのではないかとということで、公開しないという条文を削除するということが大きな改正となります。

よろしいでしょうか。では質疑を終結します。採決を行います。ただいま説明のありました第 1 号議案「豊能町立小・中学校通学区域審議会規則一部改正の件」、賛成の方の挙手を求めます。

(挙手全員)

挙手全員であります。よって第 1 号議案は可決されました。次に第 2 号議案「豊能町立小・中学校通学区域審議会への諮問の件」でございます。事務局より説明をお願いいたします。

【教育総務課長】

それでは第 2 号議案「豊能町立小・中学校通学区域審議会への諮問の件」につきまして、ご説明いたします。令和 8 年 4 月にとよの東学園及びとよの西学園が開校するにあたりまして、「豊能町立小・中学校通学区域審議会規則」第 2 条の規定に基づきまして、両学園の通学区域について、審議会に意見を求めるものでございます。

現在は、この区域というものが本町教育委員会の通学区域に関する規則でどこの地域の方はこの小学校、中学校というような規定がございます。令和 8 年 4 月に義務教育学校が開校されますので、新たにその区域を設定するに当たり、審議会の委員の皆様のご意見をちょうだいしたいということで、今回、意見を求めるということで議案を上げさせていただいているところです。説明は以上でございます。

【教育長】

ただいまの説明に対する質疑を求めます。よろしいでしょうか。

【委員】

通学区域については、はっきりと決まってくると思いますが、特別な理由があれば変更しても大丈夫という話だったと思います。例えば学校でいじめに遭い通えないケースです。

地元の方とそういう話をする機会があったのですが、意外とそういうことができるということが住民の方レベルでは知らず情報が入ってこないから、今通っている学校に通い続けられないといけないと思っている場合があるかもしれません。

周知方法は難しいですが、少なくとも現場の教員レベルでは通学区域を変えられるということをよく知っていただけるよう、情報周知をしていただけたら良いかと思います。

【委員】

今のことに関連して、いじめや不登校の子どもに対し、対応する時に教育委員会を通して、こういうことができますという説明もできると思います。そのことも含めて、丁寧にそれぞれの子どもの事情、あるいは保護者も含めた、該当する子どもにとって最適な学習環境の保障を是非していただけたらと思います。

【教育総務課長】

委員がおっしゃられているように、原則的には指定校というものがございます。ただ、ご指摘いただいているような、例えばいじめとかというようなことがあれば、当然そこでの学習の機会を失うということがあります。

そこで指定校の変更であったり、区域外であったりというような制度がございます。周知の方法につきましては、何もなきにすすんでというのは少しどうかというところはあると思いますが、ただ制度としてあるということは、学校を通じて保護者も含めて、周知をするようにしていきたいと考えております。

なお、通学区域の諮問の件でご説明をさせていただきましたが、第 1 回目の通学区域審議会の

開催を4月24日(木)午後6時から、役場の大会議室で開催する予定で事務を進めているところでございます。以上でございます。

【教育長】

ありがとうございます。他に質疑等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

では質疑を終結させていただきます。採決を行いたいと思います。ただいま説明のありました第2号議案「豊能町立小・中学校通学区域審議会への諮問の件」、賛成の方の挙手を求めます。

(挙手全員)

ありがとうございます。挙手全員であります。よって第2号議案は可決されました。

続きまして、第3号議案「豊能町西地区における公私連携幼保連携型認定こども園設置に関する基本方針制定の件」でございます。審議事項となりますが、本日ご意見をいただきまして、継続審議として次回、正式に採決を行いたいと思います。それでは、事務局より説明をお願いします。

【こども育成課長】

第3号議案「豊能町西地区における公私連携幼保連携型認定こども園設置に関する基本方針制定の件」につきまして、ご説明いたします。

今回お諮りする基本方針については、令和11年4月に開園を予定している西地区における公私連携幼保連携型認定こども園の設置について、施設整備を進めるにあたっての基本的な考え方をまとめたものとなり、今後の検討の指針となるものでございます。

本日この場で私から概要の説明を行い、ご質問等にお答えしご意見をお伺いした後、変更箇所等を踏まえ、改めて5月12日の教育委員会会議で基本方針制定についてお諮りする予定をしております。

それでは議案書をご覧ください。提案理由といたしましては、豊能町西地区における公私連携幼保連携型認定こども園設置に関する取り組みの方向性を定め、今後の取り組みを推進するために行うものでございます。

次に冊子の1ページ目をご覧ください。1「基本方針作成の背景と目的」でございます。文章後半に記載しておりますように、豊能町子ども・子育て審議会による提言に基づき、保護者・運営法人・町による三者協議会を設置し、運営法人と一定期間の協定を結び、子どもと保護者の意見を反映することのできる公私連携幼保連携型認定こども園の整備を進めることとしていきます。

2ページをご覧ください。4「今後の進め方」といたしましては、まず町の方向性を保護者の皆様に説明し、十分な情報提供を行った上で、ご心配やご懸念を払拭することが大切であると認識しています。運営法人選定にあたっては、保護者代表の方にも委員として参加いただき、運営法人選定委員会の場で、町と保護者と協議の上で決定したいと考えます。

続いて3ページから9ページでは第2章として「就学前保育・教育の現状と課題」についてまとめています。3ページの1「就学前人口の推移」でございますが、過去5年間の推移として、町全体としては12人減少しています。内訳として西地区の減少は比較的緩やかな状況が見取れます。2「就学前人口の推計」については、表に記載の通り毎年減少していくことが見込まれています。

4ページをご覧ください。現在の施設の入所・入園者数の状況を記載しております。4「施設別入所・入園者率の推移」で見取れますように、西地区において就学前児童数は若干減少していますが、入園者数は横ばい状態となっております。

続いて10ページをご覧ください。第3章では「民営化による財政効果とその効果額の活用」について記載しています。2「整備事業費の比較」につきましては、公立認定こども園と民間認定こども園の財源イメージ図を示しています。例えば、施設の整備事業費を6億円とした場合、公立施設では、整備事業費の3分の2となる4億円、民間設置では4分の1となる1億5000万円が町の負担額となり、財政効果額は2億5000万円であると考えられます。

11ページをご覧ください。3「運営事業費の比較」については、令和5年度決算ベースで比較

すると、町立保育所と幼稚園に通う児童1人当たりの町負担額と、施設を統合した場合に民間の認定こども園に通う児童1人当たりの町負担額を比較すると、町立は民間の約2倍になっています。具体的には町立施設による算出表では、1人当たりの町負担額を130万9000円と算出しており、民間施設による算出表では、1人当たりの町負担額を62万9000円と算出しています。

続いて13ページをご覧ください。第4章「民営化に関する基本的な方針」について13ページから18ページに記載しています。この基本的な方針をもとに今後、民営化に関する詳細な仕様書を作成することとしています。1「公私連携幼保連携型認定こども園を設置する」ことにつきましては、民設・民営でありつつ市町村の関与を明確にして、民間法人（学校法人又は社会福祉法人）の内、運営を継続的かつ安定的に行うことができる法人に運営を移管する制度です。町と法人が協定を交わすことにより、これまで公立の保育所や幼稚園で培ってきた保育・教育の継承並びに、在園（所）児への配慮について十分な引継ぎが可能となることから、保護者の不安解消を図ることができます。また、本町の教育の大きな特色である保幼小中一貫教育の継承を行うことが可能となります。

続いて14ページをご覧ください。協定に定める事項としては、認定こども園法第34条第2項に6つの項目で規定されています。内容は名称、所在地、教育・保育等に関する基本的事項、市町村による必要な設備の貸付、譲渡その他の協力に関する基本的事項、協定の有効期間、協定に違反した場合の措置等となっています。

2「施設規模・定員」につきましては、入園を希望するすべての児童が利用できるよう、190人の定員を想定しています。定員の内訳は0歳から5歳まで、各年齢及び認定区分ごとに下の表の通り定めています。

また、施設の敷地面積は約3500㎡を予定しており、建物の敷地、園庭、保護者の送迎用駐車場、通園バスの駐車場等を含んだ面積で算出しています。

続いて15ページをご覧ください。3「設置場所の候補地」でございます。施設の設置場所は西地区の公共施設再編整備計画の中で、まちづくりの視点と令和4年1月の豊能町子ども・子育て審議会の提言を踏まえて決定いたします。現時点での候補地はふれあい広場から豊寿荘にかけての町有地といたします。なお、法人募集に係る仕様書の作成時には具体的な場所を特定することとしています。

また、当該土地については令和11年から10年間無償貸与することとし、以降は運営法人との協議により定めることといたします。

4「運営法人の選定」につきましては、民営化後の設置主体は保育や幼児教育の実績があり、安定的に質の高い保育・教育を確保できる民間法人といたします。選定にあたっては、学識経験者や保護者等から構成する認定こども園設置及び運営法人選定委員会を設置し、プロポーザル方式で行います。書類選考、ヒアリング及び経営状況調査等を行うとともに、選考の公平性・透明性を確保します。また、民間法人の募集に当たっては、現在の保育サービスは維持することとし、新たな保育サービスの提案を求めることといたします。

16ページをご覧ください。法人に提案を求める新たな保育サービスの例を掲げています。保護者からの要望が多い、「病児、病後児保育事業」や、「こども誰でも通園制度」、「課外活動・個性をのばすプログラム」など、保護者のニーズを踏まえた提案と事業実施を求めるといたします。

5「質の高い職員の確保と職員配置」といたしましては、表に記載の通り、国基準に忠じた職員配置を行うことといたします。なお1歳児につきましては、国基準が子ども6人に対して職員1人となっていますが、町立施設の現在の配置基準に準じ、子ども5人に対して職員1人といたします。また、特別な配慮・支援が必要な児童については、加配保育士等を配置することといたします。

6「保育・教育の内容等」につきましては、運営法人と町が協定書により定めるとしていますが、その内容は、豊能町教育基本指針等に基づき、乳幼児期の保育・教育の推進に協力する旨を明記することといたします。

具体的には、①保幼小中一貫教育として、15年間の「学び」と「育ち」をつなぐ教育を継続すること。②民営化前の町立保育所、幼稚園の保育・教育目標である「しなやかな心と体を持ち、生き生きと遊ぶ子ども」の全体的な計画を参考にすること。③障がいのある児童や特別な配慮・支援を必要とする児童の積極的な受け入れを義務づけること。④地域との交流を継続す

ること。以上を記載することといたします。

17 ページをご覧ください。7「三者協議会の設置」につきましては、保護者代表、運営法人、町の三者間で、移行に伴う諸事情について協議し、合意形成を図ることとします。①「協議事項等」は、運営の引継ぎ、保育内容、給食関係、保護者会、保護者からの提案等としています。②「設置時期」につきましては、運営法人選定後の2ヶ月後を予定しています。③「設置期間」は、民営化後の2年後までを原則といたします。

続いて9「合同保育と引継ぎ保育」については、移行に伴う影響に配慮した円滑な引継ぎを行うため、開園1年前に運営法人の職員が吉川保育所とひかり幼稚園それぞれに勤務して合同保育を行うことといたします。開園後は町職員を派遣して、引継ぎ保育を行うことにより保育内容の継続を図り、運営法人への移管をスムーズに行い、子ども、保護者と運営法人の信頼関係を築くこととしています。

18 ページをご覧ください。10「認定こども園開園までのスケジュール」についてご説明します。運営法人の選定にあたっては、設置場所の決定が不可欠ですが、現在、西地区公共施設再編整備計画を策定中であり、この計画の中で具体的な場所を決定いたします。また、設置場所決定後の基本的なスケジュールは下記の表に示しています。

令和7年度におきましては、夏頃をめどに保護者説明会を実施し、あわせて運営法人選定委員会を設置いたします。選定委員会では、夏から秋にかけて法人募集に関する仕様書の検討を行い、冬ごろには募集要領を公表・配布し、応募の受け付けを行います。概ね来年の2月ごろから4月ごろにかけて応募法人の審査を行い、運営法人を決定することを予定しております。

令和8年度におきましては、運営法人の公表を行うとともに法人と協定を締結します。また、三者協議会を設置して、様々な事項の検討を開始するとともに、保護者アンケートを実施して保護者のニーズの把握をいたします。

一方で、施設整備については基本設計を策定し、大阪府と補助金の申請に係る協議を開始いたします。令和9年度におきましては引き続き、三者協議会で検討調整を進めます。また、施設整備については、補助金の内示を受け、実施設計を策定するとともに、年度の後半には建設工事を開始いたします。

令和10年度におきましては、引き続き開園に向けた検討・調整を進めるとともに、民間法人から職員を受け入れ、公立施設において合同保育を実施いたします。施設整備については、年度の後半に新園舎の完成を見込んでおり、開園までの残りの期間で備品の設置等、開園に向けた準備を進めることを予定しております。

その後、令和11年4月に公私連携幼保連携型認定こども園を開園いたします。町職員を民間法人に派遣して、引き続き保育を実施するとともに、引き続き三者協議会において施設の運営等に係る協議検討を継続して参ります。

以上で、豊能町西地区における公私連携幼保連携型認定こども園設置に関する基本方針案の説明を終わります。

【教育長】

ありがとうございます。ただいまの説明に対して質問がありましたらお願いいたします。

【増田委員】

民営化による財政効果は分かります。他の市町村での民間の認定こども園の実績を調べられて、そこから色々な情報が出るとは思いますが、デメリットとして何か想定されているでしょうか。

そして、それが協定書にどう反映されていくのか少し心配の部分があります。職員の待遇もそうですし給食のこともそうです。保幼小中一貫教育を進めていますが、民営化することによりどんなデメリットがあり、どういった対応をしていくか、何かお考えはありますか。

【こども育成課長】

ご質問につきまして、現在わかる範囲で回答いたします。1つ目の職員の待遇についてですが、現在ひかり幼稚園、吉川保育所に勤めている正職員がどうなるのかということかと思えます。実は、正職員全体の人数が減ってきているということがありまして、各園所には正職員に加え

て、会計年度任用職員や派遣職員で何とか園を運営しているという現状がございます。

このことを踏まえまして、幼稚園あるいは保育所の正職員に関しては、その職場がなくなったとしてもその後はふたば園での勤務、あるいはその他の町職員の任用として、他の場所での勤務を継続していただけるものと思っております。年齢層が少し上がってきていますので、自然の退職もあるのではないかと考えております。

給食の件ですが、これは今後三者協議会の中でも詳しく協議をしていくことになると思いますが、できるだけ費用負担も含めて今と同じ給食を継続できるような形で法人とは協議を進めていきたいと考えております。

保幼小中一貫教育に関してですが、現在は公立施設などで連携がとれているが、民間施設になった場合には、豊能町の掲げる保幼小中一貫教育の連携がとれなくなるのでは、というところのご懸念かと思っております。

これについては、我々が仕様書を策定する段階で、例え民間法人であっても豊能町の保幼小中一貫教育に賛同していただき、地域の子育て支援に関わる、あるいは教育・保育に関わる事業所としての責任ということもございますので、そのところを理解している法人に応募していただくということで、仕様書の中でも確実に謳っていきたいと考えております。

【教育長】

デメリットとしては、今公立でしていることが一定、保護者には安心していただいているかと思っております。それについては、保護者に不安を与えないようにということで、デメリットを解消するために三者協議会というものを当面の間は設置をして、保護者の不安等を解消するための協議会を民営になっても進めるというのが一つのデメリットへの対応かと考えております。

【委員】

先ほど教育長がおっしゃっていた通り、私は本当に豊能町の保幼の教育はすごいなと思っております。民間になることによって、文書では色々と書いていたとしても、効率化が優先され、良いところが少しでも減ると残念ですので、そのあたりを協定書についてはしっかりとしたものを作っていただいて、効率優先ではなく、大事にしてきたものを維持していただけたらと思っております。

【教育長】

ありがとうございます。町内在住の保護者の方が公立を選んでいただいていることがその証かと思っております。豊能町の中に4園ほどが園バスを使って入ってきているかと思っております。

保護者にとっては選択するという余地はできてくるのかと思っておりますが、今までの良さというのを保護者の方にご理解いただけるよう努めていく必要があると思っております。

【こども未来部長】

冊子の17ページですが、8番に合同保育と引継ぎ保育という項目がございます。先ほど委員がご懸念されておられました、今までしてきた保育がどのように継承されるのか、というところにつきましても、現在の想定で、まず運営法人を決定後、この新しい認定こども園を担っていただく方に、準備という形で、今の吉川保育所とかひかり幼稚園で、実際に合同保育を行っていただきます。

今後開園しても、町職員である今の吉川保育所とひかり幼稚園の職員を一定程度派遣して、引き続き民間になっても、一定の期間については豊能町の保育が継承できるように保護者へ不安を解消できるように努めていきたいと思っております。

【教育長】

委員の言われたことはとても大事だと思いますので、また反映できるようにと思っております。

【委員】

私も実は同じような心配をされていて、大きな方針転換になるということだと思います。世の中の流れとしては、だんだん質のいい民間法人が育ってきているという面がありますが、コスト面の紹介がありましたけれども、それを支援するような様々なルールができていて良いなと思います。

私が一番心配しているのは、子育て・教育全般は持続可能な組織として運営してもらわないと困ります。移行するときだけ合同で連携を行うことについて、2年、3年はいいいのですが、5年、10年と経つと、しっかりとチェックをしていかないと私は半分信用、半分不安です。

少しきつい言い方をすると不信感もあります。それはある種、民間というものの性格の問題で、基本的にコスト意識を強く持っている組織ですので、数年間は何事もないかのように間違いなくやると思いますし、契約も履行すると思います。

町の側では、スタッフの方が皆さん変わりますよね。契約を結んだときの職員がいなくなったり異動したりしてということが必ず役所の場合にはあります。そういう点で言うと、委託契約を取り交わした時の大事なことを役所の中でまずは受け継がれていて、それを大事にしていくということがまず必須です。

親御さんたちも当然、我が子が通えればもう後は関心がなくなってくるものです。そういう面では、教育委員会や町部局が子育ての状況についてしっかりと責任を持って質の保証をしていくということについて、強い決意が大事だと思っています。

これに関連して幼稚園の養成課程ですが、大学を中心として閉校されてきていて、養成機関が減ってきています。それから、質についても大丈夫かと思うような学生たちが資格を取ったりしているような状況が少し心配されます。

民間であろうと公務員であろうと、こういう施設で働く職員の研修とか、質保証ということに関して、町であれば町の職員ですからしっかりと責任を持たなければなりません。

大事なことは数年間だけではなく、持続可能な豊能町の子育て状況、保育状況をしっかりと責任をもって町民に約束をしていくというようなことを、この基本方針の中にしっかりと町民に約束して欲しいと思います。

一定程度責任を持って、民間に任せたから自由にやらせるのではなく、小学校との連携とかも含めて自由放任にするのではなく、関与していくような契約の仕方もあるのではないかと思います。組織として持続的に環境整備についてしっかりとやるということをぜひ基本方針の中の一番大事なポイントとしていただきたいです。

三者協議会についても数年で終わりというわけではなく、質をしっかりと担保していく。保育園に関して、厚生労働省が組織の評価についてきちんとシステムを作っています。残念ながら、幼稚園の評価は小中学校の学校評価ほどまだきちんと機能していません。今後、民間に任せるのであれば、就学前の様々な幼稚園、保育所や認定こども園とかの組織に関する評価システムをきちんと機能させるように自己評価をやっていただきたいです。

その上で、関係者評価をきちんとやる。厚生労働省関係については第三者評価まで考えていますので、子どもを預かるプロとして、しっかりと自分たちで点検評価ができるようレベルアップをしていただきたいと思っています。

【教育長】

事務局にお聞きしますが、指導や監査等は継続してありますでしょうか。

【こども育成課長】

認定こども園の所管官庁は大阪府となっておりますので、大阪府からの認可となると思いますが、当然所在市町村もそこに関わってきます。詳細についてはまた確認いたしますが、ご懸念されているような、ノータッチになってしまうということはありません。頻度についてはわかりませんが、できるだけ町も継続して関与していくという形をとりたいと思っています。

これを今回の基本方針の中に書き込むのか、それとも今後の委託の仕様書の中に書き込むことになるのか、そのあたりはもう一度調べたいと思います。

【教育長】

所管官庁について、厚生労働省と文部科学省との違いがあるので、幼稚園や幼稚園型認定こども園が大阪府の所管になり、幼保連携型認定こども園は市町村が所轄官庁となります。監査や指導は全て豊能町がすることになります。大阪府については、認可はしますが豊能町が直接、園への指導ができるという立場になります。

ですので、今言われたような心配事について直接言える立場となります。幼稚園については、市町村ではなく大阪府にて指導されます。書類を出して、監査を受けて、指導改善を求められて、第三者評価等すべて公表するということになっています。

今言われました7番目の三者協議会の設置期間について、2年後までの「2年」は要検討でしょうか。5年後、10年後が心配だという委員のご意見はよくわかります。

【委員】

保育園と幼稚園は性格が違うと思いますが、これが一緒になってしまうと幼稚園教育的な面は無くなってしまい保育園になってしまうのか、それとも年長生が幼稚園生になるのか、そのあたりを教えてくださいませんか。

【こども育成課長】

豊能町では現在、認定こども園ふたば園がございまして、すでに幼稚園機能と保育園機能をあわせ持った施設として運営しております。その中では教育の部分と保育の部分を3歳以上に関しては行っています。ただ、3歳未満に関しては教育よりも保育が主体になるという状況です。

【委員】

1つ疑問なのは、子どもさんの数はこれから増えないと思っています。そういう中で民間の業者が本当に手を挙げてくれるのか、その辺のことはどう考えておりますでしょうか。

【こども育成課長】

子どもの人数推計に関しては、こちらの資料にも書いているように、上昇傾向ではなく減少気味なところがございます。ただ、これを踏まえて内容について複数の法人とヒアリングを行っている最中でございます。

何社かは、この状況であってもやっていきたいという答えも聞いております。今後、ヒアリングをしているところだけではなく、幅広く募集をしてもう少し広範囲から色々な意見が出るよう、あるいは色々な法人が見つかるような手段を考えていきたいと思っております。

【委員】

対象のお子さんは豊能町の西地区の方だけでしょうか。それとも他の地区の方も対象になるのでしょうか。

【こども育成課長】

公私連携でということですので、豊能町の税金も入っていて、豊能町内の施設でありますので、豊能町の方が利用できるように考えております。一方で民間園でございますので、他市町の方が入れられるということも想定はしております。

例えば豊能町のお子さんが入れずに、他市町村の方が入れるという状況ができるだけ起こらないような方策を、例えば仕様書の中で定められるのかということでは成功例がございますので、それを踏まえながら調整していきたいと考えています。

【委員】

17ページの、想定する協議内容のところ、給食など色々と書かれていますけれど、ハンディキャップを持った子どもの扱いをどうするかというところはしっかり協議していただきたいです。民間になってくると、受け入れられませんという話が出てくるかもしれません。

あと、候補地に関して先月の教育委員会会議の時に、東能勢中学校の学校案内を見せていただきました。校長先生と研修の時に話をしていたのですが、豊能町の学校だから、子ど

もたちに地元の遊びをさせてあげたいということで、一面の最初のところに川遊びをする写真を入れていたそうで、すごく良いなと思いました。

場所に関しては、豊能町は里山にあるので、今の保育所の場所がすごくいいところであって、園からの散歩も気軽にできますし、小さい時に自然と親しむということが、子どもさんも保護者の方にとっても良いことだと思いますので、今の場所も含めて、検討していただいた方がいいかと思っています。

【教育長】

委員の言われたとおり、保育所の場所は確かに自然が豊かだという声もあります。それをお聞きしながら、公共施設再編ということで今この地域を指定しているので、一番人が集まって来やすいところということでこの場所になっております。また、ご意見は検討させていただきます。

【委員】

三者協議会の「2年後までとする」というところがなぜ2年なのでしょう。

あと、半分民間と半分公ということで、保幼小中の連携で小学校・中学校との関わりを持続していただけるようなことを明記等できるのでしょうか。三者には町が入っていますけれども、小学校・中学校と目指すところが同じということを確認していただけるような項目があってもいいのではないかと思います。

【教育長】

6番の保育・教育の内容と16ページの①のところにございます。研修や会議には参加していただくように記載されています。

具体的に何を連携したいのかを書かないと相手もわかりにくいのではないかと思います。光風台小学校では体育を連携していたり、ふたば園では体験で小中との交流を連携したり、中身について具体的に出せた方がいいかと思います。

【委員】

教育内容も変わっていくと思いますので、それを保幼小中みんなで共有できる場を約束していただけたらなと思っていますということです。

【教育長】

町の課題を一緒に共有してもらえて、教育に反映するということですね。

運営法人の選定のところで、学校法人・社会福祉法人としていますが、法人は色々な形があるかと思います。個人立でしているところとか、株式会社でやっているところとか、そういうところは入れないということでしょうか。

【こども育成課長】

公私連携幼保連携型認定こども園に関しましては、法律で法人の対象が決まっております、学校法人または社会福祉法人のいずれかということになっております。

【教育長】

他いかがでしょうか。本日、これをしっかりと読み込むのは中々難しいと思います。最初に申し上げますように、次回に最終の決定をしたいと思っております。

また、次回までに事務局へメール等でお問い合わせやご意見等いただけたら、それをまた反映して再度提案をさせていただこうと思っております。

それでは継続審議とさせていただきます、質疑を終了させていただきます。次回、採決を行いますので、またご意見等ありましたら、事務局までよろしく願いいたします。

次に、第4号議案「豊能町立図書館協議会委員の任命について」でございます。事務局より説明をお願いいたします。

【生涯学習課長】

第4号議案「豊能町立図書館協議会委員の任命について」、ご説明させていただきます。

議案書をご覧ください。提案理由としましては、「豊能町立図書館設置条例」第4条の規定により、任期満了に伴う委員の任命を行いたく、教育委員会会議での議決を求めるものでございます。

2枚目の委員予定者名簿をご覧ください。今回任命を予定しております委員は6名で、うち3名が再任、3名が新任委員でございます。再任は、4番の田中美知さん、5番の松島康郎さん、6番の宗像亮さんであります。選出区分は記載の通りでございます。

今回、新任で任命を予定しております1番の今岡良子さんと2番の小嶋正良さん、3番の田中麻里さんの経歴をご紹介します。

まず1番の今岡良子さんですが、年齢が60代、豊能町希望ヶ丘在住、町民団体「とよのわ」のメンバー、豊能町の事業として生まれた「トヨノノ応援会」終了後に、町民が自主的にコミュニティの存続を願い立ち上げた「とよのわ」の会員として、町の資源や人を生かし、支え合い、助け合うそんなアイデアを応援する活動をされております。

東能勢小学校の児童に対し、モンゴル語の文化を理解するためのサポート事業の実施や、地域のイベント協力など、社会貢献も行われておられます。大阪府立能勢高校のスーパーグローバルハイスクールで、平成27年度より5年間の設置の取り組みに関わられ、後の豊中高校の能勢分校でも運営協議会委員としても尽力されたことから、グローバルな視点でこれからの図書館活動への意見と、豊能町の町域文化の創造に資するための活動について、専門的な意見が期待できることから、今回学識経験者の区分で委員に任命をしたいと考えております。

次に、小嶋正良さんは70代、ときわ台在住で、元豊能町観光ボランティアガイドの会員で、平成29年から図書館講座「豊能の歴史と自然」の講師をきっかけに、図書館で人と人が繋がる活動に協力をいただいております。初谷溪谷をはじめ、町内の貴重な動植物の保護活動、地域文化の保存伝承活動に取り組みまれながら、令和2年から「トヨノレポーター」として情報発信活動も行われております。

自然保護活動の傍ら、生態系の理解を目的とした市民大学で学びを深めながら、令和3年からは吉川小学校や保育所での自然教育サポーターとして、子どもたちへの地域文化をつなげる役割も担われております。生涯学習を実践されているアクティブシニアの視点と、町の外出支援「おでかけくん」にも従事された経験を生かした福祉的な視点からの意見も期待できることから、今回、社会教育関係者という区分で委員に任命したいと考えています。

最後に田中麻里さんは、40代で、光風台在住、子育て世代で、図書館で本を借りるだけでなく、家族で行事等に参加されるなど、暮らしの中に図書館がある子育てを实践されておられます。ひかり幼稚園PTAとして5年間にわたり絵本ボランティアを経験され、子どもの読書推進に尽力されました。

また、同期間に園の絵本修理ボランティアとしても活動されたことがきっかけで、令和4年度からは、町立図書館の修理ボランティアとして活動していただいております。子育て支援事業、家庭における読書活動の推進に関する意見はもちろん、図書館を舞台に自主的、自発的な活動や文化活動を営む人々の代表としての意見を期待するところです。

母語が日本語でない人への言葉のバリアフリー化の推進等の事業に関しても、専門的な意見が期待できることから、今回、学識経験者の区分で委員に任命したいと考えております。

以上が今回提案させていただいた6名の方でございます。なお、任期は令和7年5月1日より2年間となります。説明は以上です。ご審議賜りますよう、よろしく申し上げます。

【教育長】

ただいまの件につきまして質問等ございましたらお願いします。

【委員】

任命にあたり、図書館設置条例等をもとにして推薦されたのだと思います。豊能町の図書館は、今は箕面市の方も豊能町と同じ条件で使え、箕面森町は図書館がないと思いますので、豊能町の図書館を使うことが多いと思います。豊能町の図書館を充実させるためには、その利用者の意見を取っていかないといけないという意味で、箕面市の方も将来的にこの委員に参加し

ていただく形で考えていけば、もっと皆さんが利用しやすい図書館ができるのではないかと思います。

【生涯学習課長】

今まであまりそういったご意見をいただいたことがございませんでしたので、今後はそのことを含めまして、検討していけたらと思います。

【教育長】

他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。では今回は令和7年から2年間ということで、新任の方が3名、再任の方が3名ということで提案がありました。

ただいま説明がありました第4号議案「豊能町立図書館協議会委員の任命について」、賛成の方の挙手を求めます。

(挙手全員)

ありがとうございます。挙手全員であります。よって第4号議案は可決されました。続いて、承認事項に移らせていただきます。第1号承認「豊能町教育委員会と桃山学院大学との連携協力に関する協定について」です。事務局より説明をお願いします。

【義務教育課長】

第1号承認「豊能町教育委員会と桃山学院大学との連携協力に関する協定について」、ご説明をさせていただきます。本件は、豊能町教育委員会と桃山学院大学との連携協力に関する協定を締結したことにつきまして、承認を求めるものでございます。

令和3年6月17日付で、桃山学院教育大学と協定を締結しておりましたが、令和7年4月から、桃山学院教育大学が桃山学院大学に統合されたことに伴いまして、協定を再締結したものでございます。協定書を2枚目に添付しております。説明は以上になります。ご承認賜りますようどうぞよろしくお願いいたします。

【教育長】

ただいまの説明に対する質疑を求めます。具体的にはどのような実績がありますでしょうか。

【義務教育課長】

令和3年6月17日付で締結をしておりますが、主には教職員の資質向上のために桃山学院大学の先生方に研修の講師としてお越しいただいております。具体的に言いますと、豊能町で教員をされていた龍神美和先生にお越しいただきまして、道徳の師範授業と講義をしていただきましたり、国語教育の二瓶弘行先生に、授業づくりについての研修をしていただいたりしております。今年度、町の夏季教職員研修にもお二人の先生にお越しいただく予定です。以上です。

【教育長】

それでは質疑を終結させていただきます。第1号承認「豊能町教育委員会と桃山学院大学との連携協力に関する協定について」、承認の方の挙手を求めます。

(挙手全員)

ありがとうございました。承認全員でございます。よって第1号承認は可決されました。次に第2号承認「専決処分の報告の件」ですが、第3号承認「専決処分の報告の件」と内容が関連するものとなっておりますので、併せて説明をお願いしたいと思います。採決につきましては、それぞれで行いたいと思っております。事務局より説明をお願いします。

【こども育成課長】

それでは第2号承認「専決処分の報告の件」及び第3号承認「専決処分の報告の件」につつま

して、併せてご説明いたします。

まず、第2号承認をご覧ください。「専決処分の報告の件」でございます。「豊能町立認定こども園条例施行規則の一部を改正する規則の制定」について、豊能町教育委員会教育長に対する事務委任規則第3条の規定により専決処分としたため、同規則第4条の規定により報告するものです。

専決処分の内容については裏面をご覧ください。議決事項、令和7年3月19日、議決議案第18号の取り消しの件でございます。この取り消しを行う議案第18号は豊能町立認定こども園条例施行規則第2条中、施設の利用定員を150人から85人に改めるものとして、令和7年3月教育委員会会議において議決されたものでございます。

議決事項の取り消しを行う理由につきましては、当該規則の公布手続きを進める最中に、議案の記載事項に一部誤りが発見されたためでございます。具体的には、議案中の改正案文の規則名に関しまして、本来、「豊能町立認定こども園条例施行規則」と記載すべきところ、「豊能町立幼稚園条例施行規則」と表記していたものでございます。

3月の教育委員会会議では、事務局はこれに気づかず、誤った改正案文により議決がされたことから、今回専決処分により議決を取り消したものでございます。

次に第3号承認をご覧ください。同じく「専決処分の報告の件」でございます。「豊能町立認定こども園条例施行規則の一部を改正する規則の制定」について、豊能町教育委員会教育長に対する事務委任規則第3条の規定により専決処分としたため、当規則第4条の規定により報告するものです。専決処分の内容については裏面の書類をご覧ください。「豊能町立認定こども園条例施行規則の一部を改正する規則改正の件」でございます。

内容は、先ほど取り消し処分を行った規則改正について、改正文の規則名を「豊能町立認定こども園条例施行規則」とし、前回と同じ内容にて専決処分を行ったものでございます。今回、議決事項の取り消し及び専決処分という事態を招いたことによりまして、教育委員をはじめ、住民の皆様にご迷惑をおかけしましたことにつきまして、深くお詫び申し上げます。事務局といたしましては、今後このようなことがないよう、事務手続きに細心の注意を図り、再発防止に努めて参りたいと考えております。

承認事項2件、合わせての説明とお詫びは以上でございます。ご審議の上、ご承認賜りますようお願いいたします。

【教育長】

教育長である私からもお詫び申し上げます。申し訳ございませんでした。ただ、4月1日から実施するという事で専決処分とさせていただきます。

文中の認定こども園という言葉が幼稚園となっております、やはり教育委員会で議決いただくには取り消しをして、再度承認をいただくという形が正しいだろうということで今回お詫びとともに再提案させていただいております。どうかご理解いただけたらと思います。

ご質疑よろしいでしょうか。では、質疑を終結させていただきます。1つ目ですが、第2号承認「専決処分の報告の件」、議決事項の取り消しの件につきまして、賛成の方の挙手を求めます。

(挙手全員)

ありがとうございます。挙手全員でございます。ご承認ありがとうございます。続きまして、第3号承認「専決処分の報告の件」、改めての規則の制定につきまして、賛成の方の挙手をお願いいたします。

(挙手全員)

挙手全員です。ご承認いただきましてありがとうございます。

本日の審議事項、承認事項はすべて終了となります。各課からの報告につきましては、初めにさせていただきましたので、本日の議事はすべて終了ということになります。

次に5月の教育委員会会議の日程ですが、5月12日(月)午後2時から予定しております。よろしくお願いいたします。以上をもちまして、令和7年度第1回豊能町教育委員会会議4月定例会

を閉会いたします。本日はお疲れ様でした。

閉会 午後 3 時 37 分